

自 己 評 価 表

平成27年度

愛媛県立今治工業高等学校
学校番号 17

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足元をしっかりと見つめ、幅広い視野で時の流れを多面的にとらえよう。 1 ものづくりを通じた豊かな人間形成の推進 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 4 部活動の充実と個性豊かな人間の育成 5 各種資格取得の奨励とキャリア教育の推進 6 地域社会へのボランティア活動の推進
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	次代を担う地域産業技術者育成事業の充実	インターンシップの充実やデュアルシステムの定着と、次代を担う地域産業技術者育成事業を活用し地域産業界との連携を図る。	A	インターンシップの受入事業所数が充実し、専門的な技術を習得できるデュアルシステムが各科積極的に実施できた。	デュアルシステムの実施時期や実施回数の充実を図る。
	ものづくり教育の推進	各種競技大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業・技能士等との連携を図り生徒・教員の技能技術の向上に努める。	B	各科様々な競技大会に挑戦し、徐々に幅広い成果が出てきた。また教員の研修に積極的に参加できた。	企業・技能士との更なる連携を深め、指導体制の充実を図る。
		愛媛ものづくり企業「すご技」企業を訪問し、工業科教員のスキルアップを図るとともに、専門教育を充実させる。	B	「体験型企業研修」や「優れた技術力を有する企業の訪問」を実施するなど、生徒・教員のスキルアップを計ることができた。	実施回数・方法を検討しさらなる充実を目指す。
	資格・検定取得の奨励	検定試験に積極的に挑戦させるなど、資格取得指導の充実を図る。	A	今年度ジュニアマイスターゴールド・シルバーとも多くの取得ができた。各科の検定・各種競技会への取組の成果が現れている。	検定の指導方法を検討し、効率的な指導を行う。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	学習意欲に欠け、基礎学力の定着がみられない生徒の指導を、根気強く継続的に実施することにより、学力向上が見られた。	各科の取組だけでなく、学校全体として共通の認識のもと、時間の有効活用を検討し学力の定着に努める。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	研修の機会や参加者の数が昨年度より増えたが、内容面ではまだまだ検討の余地がある。	内容の精選を行い、慣例にならないように実施する。
		生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。	B	評価内容を変更し、全教科、全校生徒を対象に実施した。グラフ化にすることにより指導等の改善につながっている。また、生徒自身、学習方法等について見直し、改善を図ることができた。	評価の結果をもとに授業の方法など、改善点を検討する。生徒自身が振り返ることにより反省だけでなく、今後の取組の参考にさせる。
	図書室及び図書利用の促進	図書委員会の活動を活性化し、図書室利用の啓発に努める。(生徒一人当たり年間3冊以上貸出)	C	図書委員会の活動はまずまずであったが、図書室利用や貸し出し冊数はあまり成果があらわれなかった。	日々の啓発に努めるとともに、行事・季節に応じた掲示物や展示を工夫する。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的参加と自主的な運営に努める。	A	生徒会活動全般において生徒が積極的に参加し、活動することができた。	生徒主体の生徒会活動を行い、企画運営に努める。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体140名以上、四国総体4競技以上を目指す。	A	運動部、文化部、生産的部ともに全国大会で活躍することができた。	底辺の拡大を図るとともに、成績の向上を図る。
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	個人的にボランティア活動に参加している生徒もあり、次第に活動が浸透しているようである。	全校生徒への呼びかけを行う。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	問題行動の防止	教職員の共通理解をこれまで以上に図るとともに、保護者との連携も強化し、問題行動の未然防止に努める。	B	機会をとらえて教職員間及び保護者との連携を図り、未然防止に努めた結果、問題行動の件数は減少した。	保護者だけでなく地域の方や関係諸機関との連携をさらに深め、校外での問題行動の未然防止を図りたい。
	安全教育の推進	ヘルメットの着用を定着させることを通し、登下校中の交通安全意識およびさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。	B	登下校時におけるヘルメットの着用はほぼ定着している。登校時の交通事故が何件が発生したが、いずれも時間の余裕のなさが事故につながっていた。	ヘルメットの着用推進および、時間に余裕を持った登校、一時停止等安全確認の徹底を図りたい。
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、基本的生活習慣の確立を図る。	B	遅刻者数は昨年度より減少しており、生徒の基本的な生活習慣確立への意識の向上が感じられた。服装指導の合格率も月を追ってよくなってきた。	より高い次元での生活習慣の確立ができるように指導していきたい。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任、養護教諭、科との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。	B	それぞれの立場や専門性を生かし、生徒についての情報交換ができた。	日常的にチーム支援体制を整え、柔軟に対応できるようにする。
		特別な配慮を必要とする生徒の実態の把握に努め、学校生活を支援する。	B	不適応傾向の生徒やいじめの被害者との相談を継続して行うことができた。	専門機関や保護者との連携を密にする。
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。校外の研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図る。	B	就職・進学面接試験に関し、学校全体で面接練習等に取り組んだ。また、就職・進学試験直後にアソトを実施し迅速な対応が取れた。他校と連携し、ハロワークへの聞き取りを行った。	様々な機会を捉え、生徒が公平な選考基準で安心して進路実現に専念できるよう努め、各種機関と協力し実践していきたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、人権集会を充実させ、差別を許さない集団づくりを目指す。市内各校との交流学习を通じて、地域への啓発に取り組む。	A	人権集会や人権・同和教育講演会、今治市の人権標語・ポスター・メッセージ・習字、県への人権ポスター出品等の活動を通じて生徒の啓発を行い、多数の作品が受賞する等意欲的に活動できた。市内各校と連携した交流学习やフィールドワークを始め、校外研修会への参加等人権委員会活動も熱心に取り組んだ。	全生徒への更なる啓発活動と人権意識の定着を図りたい。
進路指導	進路意識の高揚	進路希望調査や進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。他課や外部との交流を深め、生徒の職業感や勤労観を育成する。	B	3年生の一学期に2回、具体的な進路希望調査を行い、意識の高揚と進路希望の把握に努めることができた。また、今年度は企業説明会、マッチングフェア、大学・専門学校による体験型学習の時間を長く取る計画をしている。	教員や生徒への進路情報提供の充実を図るとともに、計画的にキャリア教育を実践する。就職活動支援員、外部講師を積極的に活用し、さらに充実させる。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校斡旋による就職内定率100%、進学希望達成率100%を目指す。	A	よく考えて企業を絞り、応募前職場見学へ参加した。また、工場見学、インターシップの充実により職業観や勤労観が育成できつつある。学校斡旋による就職率・進学希望達成率ともに100%の目標を達成することができた。	コミュニケーション能力の育成、精神力の鍛錬、基礎学力の向上に努める。進学者には、早い時期から目標を持たせる。
情報管理	ITの活用及び情報モラル教育の充実	授業における各教科の有効的なIT活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	C	専門科目などで情報モラル教育に関する指導を行っているが、積極的に取り組むことが出来なかった。	情報モラル教育やIT活用に関する啓発活動などを積極的に行う。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発を強化する。	B	アップデート情報を連絡し個人情報管理チェックリストの入力を実施しセキュリティに対して意識を高めたが、十分に徹底できていない面もあった。	個人情報管理チェックリストの入力を確実にを行うように啓発をする。
保健厚生	健康管理能力の育成	心と体の健康を適切に管理する能力を育て、自ら健康的な生活を送ることができる生徒の育成に努める。	B	毎月「保健だより」を発行し、健康に対して関心を持たせるとともに、保健委員を通じてクラスでの啓発活動に努めた。	保健委員を中心とし、自分自身で健康や安全を守る行動ができるようになるための意識付けを行う。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の昂揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行う。	D	防災関係では新しい取組で成果があったが、安全に対する意識の不足から重大な事故が発生してしまった。	安全点検をより徹底し、危機管理を行なうとともに、防災士等と連絡を取り、より効果的な防災学習を計画、実行する。
渉外広報	P T A 活動の活性化	生徒数の減と共に保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものに維持する。	B	P T A 役員の数を少し減らさざるを得ない状況になっているが、多くの役員やその他の保護者の皆さんが学校に足を運んで、多くの行事に関わっていただいた。	効率よく少数精鋭で学校の教育活動に保護者の皆さんに関わっていただく。5月のPTA総会の学校公開時、新しい取り組みを行う
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	生徒や保護者が見やすい、読みやすいPTA通信を心掛けて作成できた。また、今工新聞とPTA新聞についても、生徒の感想や言葉、写真などもたくさん取り入れて作成できた。	引き続き、生徒の言葉や作品、写真などを取り入れ、読みやすい、見やすい新聞にする。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、志願者数増加へつなげる。	B	例年の体験入学や出前講座に加えて、小学生対象のものづくり教室本校で開催した。また、地域の文化祭や小学校に機械・染色部や機械・電子機械部が出向いて活動した。	これまでの活動に加えて、新設される機械造船科の魅力を中学生や地域にアピールしていく方策を検討する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。